

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100088		
法人名	球磨地域農業協同組合		
事業所名	JAくま 福祉の里 グループホーム木綿葉		
所在地	熊本県球磨郡あさぎり町須恵覚井828番地		
自己評価作成日	平成29年2月26日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恒例となっている地域との交流行事として年に1回「木綿葉の集い」を実施しています。この行事では「交通安全落語」が大変好評いただいております。また、地域で文化活動されている方々もご協力、ご招待し演奏などの様々な余興をご披露いただきご利用者様はもちろん、地域の方々にも喜んでいただいております。施設周辺のお散歩やお彼岸の「観音様お参りの接待」などで顔見知りの方が声を掛けてこれ地域に見守られた施設となっています。近くの須恵小学生との交流行事などもありご利用者様も楽しみにされています。毎日の生活に変化を取り入れる為に季節に応じたバスハイイクや外食、買い物、JAくまイベントの参加など積極的に取り入れております。また今年度はあさぎり町介護相談員制度を利用させていただいております。定期的にご入居者様と面談されそこからくみ取っていただいたご意見を参考にさせていただき、更により良いケアが行えるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JAくま福祉の里が目指す「暖かい温もりのある笑いの絶えない施設」の中にある『グループホーム木綿葉』は、住み慣れた地域の中で、心地よい時間を提供しながら、入居者・家族が安心して過ごせるようなホーム運営に努めている。明るいうらびな食堂に集う入居者の表情は穏やかで、お気に入りの場所職員と談笑したり、タオルを首に掛け日課となっている朝刊に目を通す方、庭先では手際よく草取りに精を出される方など、思い思いの時間を過ごされる光景があった。球磨川で釣りを楽しんでいた頃の話をする男性入居者の表情や、観音様参りや桜の名所を語る職員からも人吉・球磨の良さが十分に伝わってきた。管理者は開所から5年を振り返りながら、地域をはじめ、関わるすべての方々への感謝を語っている。今後も入居者・家族を支えるホームとして新たな年月を重ねていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より理念をホールの壁に掲示しておりスタッフ、利用者様、訪問者様など常に目の届くようにしています。また、広報に使用する書面にはこの理念を掲載し家族様や外部の方々にも共有出来るように努めています。今年度は理念の振り返りを行いました。	ホーム独自の理念として、「信頼、尊重、共生」を掲げている。この理念については、年度初めから数ヶ月をかけ見直しの検討を行ったが、開設当初の理念の思いを再確認したうえで、継続することとしている。理念は、ホールに掲示し、パンフレットや2ヶ月1回発行の広報誌「木綿葉便り」に掲載し、職員をはじめ関係者への周知を図っている。職員は気づいたことがあれば、お互いに連絡ノート等で情報を共有し、月1回の定例会議で理念への振り返りに努めている。	理念については、今後もそのできた経緯や背景、込められた思い、地域密着型サービスの意義などを確認する機会を持つことや、年間を通じ理念がどう実践されたか振り返り、サービスに繋げていかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や観音様参りでの接待を受けたり、例年「木綿葉の集い」の開催し地域の方々を招き入れ様々な場面で交流の機会を作っている。施設周辺の散歩や施設周辺の掃除を行い挨拶やコミュニケーションをとっています。	入居者が地域と繋がりがりながら暮らしていけるよう、その基盤づくりに努めている。地域行事である春秋の彼岸に開帳される観音様参りへの参加、例年開催される「木綿葉の集い」での地域の人々との交流、町の文化祭でのホームの活動状況等の紹介、夏の恒例行事として小学生を招いてのソーメン流し等、幅広く活動している。また、公園を含めてのホーム周辺の清掃活動や別館での学童保育の実施など地域での役割を積極的に担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の施設ではあるが認知症啓発劇団「しゅんなめじょ」の活動に協力、参加出演しています。また、この発表についての広報活動も協力しています。運営推進会議などで相談されることもあり助言など対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の報告、入退居・待機者情報、受診状況、困難事例の相談や事故・ヒヤリハット事例の報告、行事の調整などを行い、様々なご意見やご質問に答えながらサービス向上に繋げています。その旨を家族会へ通して報告もしています。	2ヶ月に1回、定例的に隣接施設のホールで開催されている。会議メンバーは、区長、老人会長、民生委員、入居者代表(輪番)、家族代表(2名)、町役場、地域包括支援センターで構成されている。会議では、ホームの活動状況等報告の後、質疑、意見交換が行われている。その中では、理念や外部評価結果等も説明され、出てきた意見等は、サービス向上につなげている。出席できない家族へは、会議資料及び結果を届けて報告している。	運営推進会議には、家族代表が出席されているが、他の家族にも、時間があれば、いつでも出席されるよう、引き続き働き掛けられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上記の運営推進会議に参加していただいております。サービスの内容や困難事例の相談、事故発生後の再発防止に向けた取り組みなど行っています。関係書類は郵送せず直接あさぎり町役場へ提出するなど顔を合わせるようにしています。今年度はあさぎり町介護相談員の受け入れもしています。	町役場及び地域包括支援センターからは、運営推進会議に毎回出席が得られている。会議では、ホームの実情を理解してもらうとともに、介護保険事業の状況、災害対策等の行政情報の提供や、アドバイスをもらっている。また、介護相談員2名を受け入れ、その結果をサービス向上に生かすなど、町との協力関係を築いている。更に、地域包括支援センターの研修に参加し、医療等の他職種との連携やコミュニケーションを深める機会としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法律から禁止であると周知徹底をしています。帰宅願望が強い方など施錠や無理に止めたりしないように同行したり、どう支援すれば良いかカンファレンスや勉強会を行っています。	身体拘束をしないケアの実践について、周知徹底している。勉強会では、マニュアルを参考にミーティングを行い、認識の共有を図っている。日中は玄関の施錠はなく、外出傾向の入居者には同行して対応するなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。また、職員のストレスチェックを行うとともに、働きやすい勤務シフトに変更するなど、メンタルケアにも努めている。	人感センサーについては、使用開始や継続する場合も家族への説明と了解のもと行っており、今後は記録にも残しておくことが必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	各研修会に参加したりその研修のフェードバックも取り入れ事業所内でも勉強している。また物理的な虐待だけでなく、言葉掛けなどから虐待のケースにあたらないかなど定期会議でも取り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はその旨の研修会などに参加しており、定期会議時などでフィードバックしている。事業所本体に権利擁護に関しての行政パンフレットなどを置いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、契約書について契約者に見ていただき、読み上げを行っている。質問などはその時や、そのあとでも随時受け付けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催し意見交換の場としています。また、運営推進会議やJA熊本中央会による満足度調査アンケートの実施などからご意見、ご要望と多く拾えるように努めています。(今年度は12月23日(祝日)に開催)	入居者及び家族は、代表者が運営推進会議に出席しており、意見や要望を表せる機会となっている。家族には、面会時に言葉かけをし近況を伝えながら要望等を確認する他、毎年実施するアンケート調査や年1回定例的(12月23日)に開催する家族会でも意見要望等を聞いている。入居者からは、普段の生活の中で話を聞いている。これらの意見、要望は連絡ノート等に記し情報を共有し、職員会議で話し合い運営に反映している。ホーム内外の苦情相談窓口については、入居時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている定例会議へ施設長など幹部職員も参加していただき意見や提案事項を聞いてもらえるようにしている。また、年に一度、法人の部長による全スタッフ対象に個別でのヒヤリングの機会があります。	職員からは、毎月1回定例の職員会議で意見提案を聞くほか、管理者もケアに入り日常の中でコミュニケーションを図りながら、随時聞いている。また、年1回法人部長による個別ヒヤリング、面談を設けており、職員からの意見等を聞く機会となっている。これらの意見等は、検討のうえ、運営に反映させることとしている。更に、休暇取得や勤務シフトについても、お互い様の精神でできるだけ希望に沿うように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の意欲を高めることが出来るように労働条件の整備、改善に努めている。昨年度より定められているストレスチェックを行っています。また法人本部に相談窓口が開設されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期会議でケアについて学んだり、必要時には専門職員が集まりマニュアルの策定や見直ししたり、勉強会を行ったりしています。外部での勉強会へも積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会へ参加しています。(2か月に1回)また、この会主催の忘年会に参加など机上以外での交流も行っている。(管理者ばかりの参加にならぬようにも努めています。)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年同様、入居時に本人の情報、家族や関係者からの聞き取りや本人との会話の中から要望や不安をくみ取り安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを持ち、本人の事ももちろん、家族様が困っていることや要望など伺っています。意見や相談があれば随時お聞きし信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られた方で、特別養護老人ホームかグループホームかで悩まれているご家族様があり助言させていただいたことがありました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出番をつくるように努めています。家事作業など出来る活動は積極的に参加していただき活躍できるようにも努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人にとって何が良い支援か家族に相談したり、病院受診付き添いをお願いしたり協力をお願いしています。担当スタッフから月に一度近況報告(画像入り)を送り、誕生会・家族会のお誘いも行い、施設生活によって家族と疎遠にならないようにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出や散歩、地域の人との交流、買い物、供養などの外出支援に努めている。面会もご自由に行ってもらい、「いつでもお越しください。」と関係者には促しの声かけにも努めています。	近くのホームに入居しているご主人との面会、帰宅願望のある方の自宅(空家)訪問、お盆でのお参りや法事での外出、地域の観音様参りなど、本人の馴染みの関係が継続されるよう支援に努めている。また、家族や知人、友人には、関係が途切れないよう、いつでも訪問してもらうように伝えている。更に、晩酌、釣りの話題、掘ったタケノコの皮むき等、生活習慣や趣味、特技についても、継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、認知症症状からくるトラブル回避や孤立を防ぐためにテーブルの位置を考慮したり、カウンターなどを利用している。レクや創作作業など合同で行う活動も取り入れています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年同様で退所後に様子を見に行くなど関係を断ち切らない様に努めているが、ケースによっては家族に相談し、あえて距離をとる配慮した事もありました。もちろん、本人、家族から相談あれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族、担当していたCMなどから聞き取りを行っています。日々の生活の中(会話や行動)から把握するようにもしています。時間にルーズな方へ無理に施設時間に合わせるのではなく、こちら側から本人へ合わせるように努めています。	入居者の思いや意向は、日常生活の普段の関わりの中で把握するように努めている。現在、食事についての好き嫌いの意思表示はされるが、暮らし方についての把握は難しい方もあり、担当職員が中心となって接する中の把握に努めている。その中で気づいたことを連絡ノート等で共有し、職員会議で話し合いプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昨年同様に情報提供書や本人、家族からの聞き取りを行っている。入居時に得た情報や後日面会などから新たに情報を得たときは連絡ノート(申し送り帳)を使用するなど全スタッフで共有できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に行っているカンファレンスや職員間の情報交換(連絡ノート)や介護記録などから全スタッフで把握出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	昨年同様に定例Meではカンファレンスの時間も設けており、日々の生活での特記事項や家族の面会時に入った情報などを介護日誌、連絡ノートなどに記録し検討・再検討している。また、その旨変更したプランあれば家族へ説明、同意を得ています。	毎月の職員会議の最後にカンファレンスの時間をとっており、計画作成担当者は、新規プランが出来上がった時は、各自しっかり目を通すことを伝えている。本人・家族の意向や職員の気づき等を活かしたプランは3か月ごとに評価を行い見直しに反映させている。入退院等で変化が生じた場合は現状に即してプランの見直しをしている。また、プランの説明、同意に当たっては、家族に直接会ってわかりやすい言葉できるように努めている。更に、策定したプランは介護日誌に添付して、常に意識して日々のケアへ反映できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録、Me、定例Me、運営推進会議など各記録はいつでも読めるようにしており情報を共有している。また、個別に担当職員別に経過、モニタリングし介護プランの見直し・評価に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所(JA関係施設も含め)の利用や交流、地域資源の活用など行っている。JAの行事(展示会)などあれば入居者と参加したこともあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議はもちろん、地域資源の把握に努め地区の行事へ参加し交流出来る様に努めている。上記のようにJAイベントも参加、活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居以前からのかかりつけ医を継続していただく様相談している。しかし家族様が遠方やかかりつけ医が遠い場合などは承諾を得て当事業所の協力医への主治医変更している。専門医へ紹介あった場合なども報告、確認をとっている。また受診時には家族付き添いもお願いしています。協力医へは診察以外でも特記(入院など)情報は伝えるようにしています。	これまでのかかりつけ医を継続して支援することとしているが、家族が遠方や通院時間の負担などの場合は、相談のうえ協力医療機関へ変更が行われている。受診はホームが中心に行っており、結果は薬の変更など必要に応じて家族へ報告している。歯科についても、受診をホームで行っている。職員はバイタルチェックや入居者の動き・表情、食欲・排泄など、日常の支援の中で異常の早期発見に努め、早めの受診や主治医へ相談を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人事業所全体で看護師Meが定期的開催されており何かあれば提案、相談と行っている。緊急な場合は別部署看護師でも随時支援を受けています。毎日の朝礼時には看護師も合わせての申し送りがあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のSWと情報交換できるように早めにアポイント入れる様に努めている。入院、退院時のカンファレンスには絶対参加(家族は仕事などで断られるケースあり)しています。行政やその医療機関の研修会などで顔を合わせる機会がありますのでこのような時は出来るだけ多くのコミュニケーションをとれるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化された時の話し合いはしている。要介護が上がられ特養入居申請対象になられた時も同様。ほとんどの方が特養入居申請申し込みを希望されることが多い。しかし、家族会や運営推進会議からは終末期までと希望される意見はあり、定期Meはもちろん、管理者がその旨の研修に参加しフィードバックに努めています。	入居契約の中で重度化の対応について話し合い、確認書を受けている。特別養護老人ホームへ住み替えを希望されている方もあるが、ホームでの最期を望まれる声や重度化し住み慣れたホームを退去することに不安を持たれる家族の声もあがっているようである。管理者はその思いを真摯に受け止め、終末期支援について職員と現状を共有しながら、研修会の機会があれば参加を行っている。	家族から終末期支援への希望も上がっているようであり、今後はどこまでホームで対応できるかのラインを法人とともに話し合いの機会を持つことも必要と思われる。今後も「木綿葉」にできる最良の支援に努めていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAEDの操作方法訓練がありホールに備えている。急変時のマニュアルが見やすい所にある。また、転倒で頭部打撲のケースが発生した場合などには速やかにリスク会議の場を持ち、同応急対応すべきかなど新たなマニュアルの追加を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練・通報訓練・消火訓練と年2回実施しています。運営推進会議はもちろん、地区の消防団(木綿葉スタッフにこの地区の消防団分団長がいるので)と一層の協力体制はできています。スタッフの緊急連絡網の整備もしています。	年2回避難訓練を実施しており、今年度は1回目に消防署、2回目は業者の参加協力が得られている。訓練の実施や災害備蓄などについても運営推進会議の中で報告や意見交換が行われている。火災については、先ずは火を出さない事を一番に、コンセントの埃なども確認している。また、消防団分団長を担っているホーム職員がいることは心強く、地域の協力体制の構築となっている。	今回の熊本地震ではホームに大きな被害はなかったようであるが、現在、球磨川の水害には特に意識を持っていることを管理者は語っている。今後も地域や行政と連携を図りながら先ずは、自然災害について机上の訓練に取り組まれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に取り入れている。不適切な声掛けについては虐待にあたらぬかなど定例Meなどで話し合っている。	一人ひとりのこれまでの人生を尊重し、声かけや誘導など本人に合わせて対応することを共有している。呼称は苗字や下の名にさん付けとしている。個人情報の使用については、入居時に書面で了承を得ており、職員の守秘義務についても周知徹底されている。衣類のコーディネートをサポートしたり、理美容やお化粧品など整容面からも本人の希望や誇りを大切にしている。職員に車椅子を押されながら浴室に向かわれる入居者の手は、感謝を表すように合わせておられ、人生の先輩からの学びの光景であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昨年同様に着替え時はどうコーディネートされたいか伺っている。それ以外、全生活の中で会話の中などから本人の思いや希望をくみ取り、実現できるように支援しています。新規入居者で在宅中は晩酌されていた方があり入居されてからもご希望通り晩酌していただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の業務は決まっているが、一人一人のペースを大事にし、ご利用者本人に合った支援に努めています。入浴予定日でも断られたら別日を提供するなど臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時はどうコーディネートされたいか伺っている。希望の化粧品などの買い物や美容室でのパーマへの外出・付き添い、送迎サービスの利用調整とも支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が一人づつ付き会話を提供したり摂取状況を見守りしながら食事している。食材の下ごしらえやテーブル拭き、下膳など各自の能力に応じた事を行っています。	献立は1週間の予定で作成し、職員が輪番で調理したものや外注の料理も活用している。主食のご飯はおにぎりを準備したり、汁物も椀や持ちやすいマグカップも揃え、入居者に希望を確認している。食形態も嚥下状態に応じて提供できるよう、フードプロセッサーも備えている。竹の子料理やふきのとうを天ぷらや味噌炒めにするなど、食欲を増す山菜のひとつは、入居者に好評のようである。入居者は食材の下ごしらえや下膳など、できることで食への関わりを持っている。	職員は入居者と一緒に会話をしながら同じ物を摂っている。また、食事のテーブル配置も入居者の関係性を考慮して検討している。「今日のご飯は美味しかね〜！」「残さんようにせなん！」など、日常の穏やかな食事の光景が伝わってきた。今後も入居者に楽しい食事支援を継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の給食業者と手作りメニューを併用している。手作りメニューは献立内容を職員が栄養バランスを考えて作っている。食事摂取観察表などの活用。水分確保は各自水筒を持っていただき残量の観察をしている。料理の形態は各自に応じて作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後チェック表も活用し、一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。洗浄が不十分な場合は職員が手伝っている。義歯使用者へは毎晩市販の洗浄剤に浸けているが、義歯着用のまま就寝したい方などには合わせて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昨年同様24時間管理の排泄チェック表を活用している。その方に合った(個別)時間帯でのトイレ誘導、パッド交換(パッドのサイズもそれぞれ違う)を実施している。トイレに座れる方なら安易なおムツ利用では無くトイレ使用をしていただくように努めています。	チェック表で個々の排泄状況を共有し、誘導や排泄用品も時間帯や状況に応じて支援している。現在布パンツの方が2名、他の方はリハビリパンツであるが、夜間のみオムツやポータブルトイレを使用される方もおられる。排泄用品はホームで準備している。これから夏に向かい、リハビリパンツから布に変更していく予定である。トイレは日に3回の掃除や小まめな確認を行い、ポータブルトイレについても掃除を徹底し、気持ちよく使用できるよう配慮している。	トイレは臭気もなく清潔に管理されているが、今後は職員も時には入居者の目線で同じトイレを使用することで、使い勝手やトイレ内の環境など新たな気づきが生まれるものと思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医への相談はもちろん、乳製品を多く取り入れたり食物繊維を増やした献立をたてている。水分不足にならないようにも観察、促している。レクでの運動や起床後にコップ一杯の水や牛乳を飲んでいただくなど自然排便を促す努力をしています。入居者個人ではヤクルト購入希望者あり販売員との調整もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性スタッフでの介助希望がある方へは配慮をしている。入浴日については基本的には隔日だが本人の意向や病院予約、体調不良などで入れない時は翌日に入浴してもらうなど柔軟に対応しています。	入浴は午前や午後に希望も確認しながら週3回支援しているが、中には5回ほど楽しめる方もおられる。拒否の方には時間をずらしたり、「一番風呂ですよ〜！」と、声をかけ入浴気分を高めてもらうなど工夫している。同性介助を希望される場合は、別日に対応している。5月の菖蒲湯や、冬至のゆず湯は全員が入れるよう、数日実施している。また、色や香りを楽しめるよう、入浴剤も使用している。	管理者は今後身体状況に応じて利用できる備品も進めていきたいとしており、さらに安全な入浴支援に繋がっていくと思われる。浴室入口の温泉マーク♨は現在女性用のものが使用されているが、男性用の♨物も準備されることで、新たな声掛けができ、入浴気分も高まるものと思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースに合わせている。夜間不眠傾向で翌朝の朝食時にも眠っている場合には無理に起こさず、食事提供時間を変更、工夫したりしている。空調や寝具調整、照明と安全面に配慮した居室配置などしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医はもちろん、処方箋はかかりつけ薬局を決め薬剤師への相談もしやすくなっています、処方薬表など連絡ノートや介護日誌にとじ込み、記録し全スタッフで管理、情報の共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昨年も同様、記録関係では出来なかったことや困ったことを記録する機会が多いが、喜ばれたことなども積極的に介護日誌、連絡ノートへの記録するように努めています。バスハイクなどの外出支援も気分転換のひとつにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に買い物に出かけたり、近隣の散歩などや地域の催しなどにも出かけている。その他、業務に支障がない限りでの希望外出支援も行っています。帰宅願望が強い方など家族に確認をとっての一時帰宅の支援も行っています。	入居者の希望も聞き入れながら、可能な限り戸外に出たり外気浴の機会を持っている。移動パン屋さんの利用で庭先に出たり、ホーム周辺の散歩や草取りを日課とされる方が、手際よく敷地内をきれいにされる光景も見られた。観音様参りや天満宮への初詣、買い物や催し物など地域に出かける機会は、知人との再会の機会でもあり入居者は楽しみにされている。また、家族の協力としては、帰宅欲求される方の一時帰宅や仏壇参りなども行われている。ホーム便りには外出時やイベントに参加の際の写真を掲載し、家族への郵送やホーム内にも掲示している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて持っていており外出時に自分で好きな物を購入されている。また、移動パン屋さんなど来られた時など希望者は購入されています。外出が難しい場合はスタッフが代わりに買い物したりもしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話、手紙と支援している。また、家族からかかってきた電話など事務室までお連れして会話していただく様にも努めています。幼馴染からのお手紙があり、その返事を書くのをお手伝いするケースがありました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物の作成、展示を行っている。また玄関先に生花を利用者自ら活かしていただくこともあります。その他、職員が使いやすい様には無く、入居者様が使いやすい様に配慮しています。	ホーム内は入居者中心の配置や使いやすさ、温湿度間を大切にしている。壁面や身近な草花等により、季節感を取り入れ、ホール中央の壁面には、オリンピック中の応援から出た入居者の一言「日の丸が要るよ！」に応じて国旗を作り掲示している。昨今は入手が困難である日めくりカレンダーも、入居者にとって馴染みのものであり、職員は毎年リビングに掲示できるよう努めている。明るいうびょう食堂からは竹林など見慣れた環境であり、新聞を広げたり、職員と談笑するなど、本人のペースに合った居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席など配置に配慮している。カウンターやキッチン内も活用し安心出来る様な居場所づくりをしています。あえて他者との交流を好まれない方への配慮も工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物や寝具など自宅から持ち込んでいただいています。家族のご位牌(仏壇)なども持ち込まれている方も居ます。居心地良く過ごしていただける様に努めています。家族様がお泊りのスペースとしては提供しておりません。	入居時に、危険なものでなければ好きなものや使い慣れたものなど、自由に居室に配置されて良いことを伝えている。テレビやラジカセ・家具・家族の写真・お位牌など本人にとって必要なものや安心できるものが持ち込まれている。家族の面会時は部屋にテーブルと椅子をお出しし、ゆっくり話をしてもらえよう心を配っている。衣類の管理はホームが中心に行っており、寝具などコインランドリー店の利用も行っている。	廊下の照明が気になる方の扉に貼られた遮光のための張り紙については、環境の一つとして職員のアイデアやひと工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場などがわかりやすいような掲示や、居室内での電灯のヒモの長さの工夫など安全面からも工夫しています。		